

告辞

厳しい暑さにみまわれた夏がようやく去り、朝夕の風に秋の訪れを感じさせます本日、ここに関係各位のご臨席のもと、佛教大学通信教育課程 第24回後期大学院学位記 第68回後期卒業証書授与式、通学課程 大学院学位記 第72回後期卒業証書授与式を挙行できますことを、大変うれしく思います。卒業生・修了生の皆さん、誠におめでとうございます。皆さんの卒業・修了を、佛教大学教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。

皆さんが今日という日を迎えることができましたのは、もちろんお一人お一人がこれまでに積み上げてこられた努力が、具体的な成果として実ったということではありますが、それに加えて、皆さんを温かく見守ってこられたご家族や保護者、友人の方々などのご支援があったからに他なりません。ご家族や保護者の皆様、お力添えいただいたすべての方に、心から敬意を表し、お喜びを申し上げます。

本日、卒業・修了を迎えられた皆さんは、佛教大学でさまざまな知識や知見、技能・技術を得られたことと思います。特に通信教育課程の場合、孤独な学びと向き合うことも必要となりますが、それを乗り越え、さまざまな制約の中でも時間を確保し、学習を積み重ね、研究の成果をまとめてこられたことでしょう。そのような困難を乗り越えて今日に至られたことは、何ものにもかえがたい経験として、きっと皆さんの今後に活かされてくるものと思います。身につけられた知識や知見、技能や技術、学習や研究の成果、そしてそれぞれの経験は決して皆さんを裏切りません。そのような成果や経験をしっかりと携えて、未来に向けて歩みを進めていただきたいと思います。

さて、本年1月1日に能登半島を襲った地震の被害がまだ癒えぬ今月24日、記録的な豪雨によってまたもや甚大な被害が出ました。命を落とされた方々に心からお悔やみ申し上げます。そして今なお苦しい状況下での生活を余儀なくされているすべての方々には心からお見舞い申し上げます。私たちは誰もがそのような状況に遭遇する可能性を持っています。だからこそ、常に、悩み苦しむ人々の存在に自ら気付けることが重要であると考えます。あちらこちらで繰り返し発生する災害を教訓とし、そこでの経験から学ぶことの大切さを忘れずに、現実や困難に向き合いながら、復興に向けて一人一人ができる取り組みを心掛けなければならないと感じています。

一方、現在の私たちの生活は、すでにあらゆる場面でデジタル技術が基盤となって、世の中が動いていると言うことができます。誰もが手にしているスマートフォンは、電話やメールはもちろん、コンピュータとしての機能も備え、写真も動画もプロのカメラの如き性能を持ち、振込みや支払い、電車の乗り降り、飛行機もコンサートのチケットもすべてスマートフォンで完結させることができます。デジタル技術の恩恵を受けて便利さを増す私たちの社会は、今後将来にわたってもICT化、DX化の進展とともに、さらに進化を遂げていくことと思います。生成AIは飛躍的に発達し、社会のあり方そのものを変えるような状況となっています。それは、テクノロジーの進化による産物の一つではありますが、すでに医療の現場や金融取引などあらゆる分野で活用され、最新のスマートフォンにも搭載されるようになりました。このように、皆さんがそれぞれの学びを終えて踏み出そうとする社会は、デジタル技術という共通基盤のもと、めまぐるしく変化し、いままでに想像することもできなかった世界へと変容していく可能性を有しています。

これらAI・人工知能をはじめとする新たな技術が、現実社会に今後どのような変化をもたらすことになるのか、それを正確に予測することは困難です。私たちの生活を根底から変えていくのではないかと不安を抱いている方もあるでしょう。しかしながら、仏教を開かれた釈尊は、このような私たちの生きる世界を「無常」としてとらえ、世界は変化する性質をもつものであり、その中で私た

ちは生きていかなければならないことを、そして、そうであるからこそ、無常なるものに執着すべきでないという、私たちが大切にすべき姿勢を示してくださっています。形あるものはいつまでもそのままの姿で世界にとどまるものではなく、必ず形を変え、変化していくものであり、やがて壊れるものである、というこの教えは2500年前に釈尊によって語られました。この教えはいま現在の私たちの生活にも、これからやってくる未来社会においても、変わらぬ真理として受けとめることができるものであり、私たちが歩むべき方向を正しく示してくれているものと考えます。

本日卒業・修了される皆さんは、テクノロジーがより一層進展していく時代に向き合っていかなければなりません。また、自然環境の面でも、政治・経済・文化的な側面からも、これから私たちが直面していく社会は、文字通り、劇的に、急激に変化を続けていく社会です。そのような激動する社会の中で生きていくために必要な知識や知見、技能や技術を皆さんはそれぞれに佛教大学で身につけられ、いま、力強く社会への第一歩を踏み出そうとされています。佛教大学で学ばれ、体験され、身につけられたすべての力を総動員し、本学の卒業生としての自覚と自信を持って、それぞれの次なる目標に向けて、着実な歩みを続けていただきたいと考えます。そして、そのように歩み続ける皆さんを、私たちは応援し続けてまいります。

本日で一旦は皆さんの学びが終了しますが、時代の急速な変化の中では、新たな学びが必要となるときもやってくるだろうと思います。変化する社会に対応しながら、それぞれの持っている力を存分に発揮するために、学び続け、考える力を更に高めていくことも必要となるでしょう。そのような皆さんの学びの場を、私たちは、ここ佛教大学に用意し続けています。もっと学び続けたいとき、もう一度学び直したいとき、あるいは悩んだり迷ったりしたときは、是非、佛教大学に帰ってきてください。教職員一同、皆さんの再訪をいつでもお待ちしております。

最後に、今後の皆さんのご健康とご活躍を祈念し、告辞といたします。

卒業・修了、本当におめでとうございます。

令和6年9月29日

佛教大学長 伊藤 真宏